Trinity

キズナエピソード\_東山陽彩\_04

１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６

１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０

------------------------------------------

//とびお自室

//ヴィジュアルノベル形式開始

俺の夏休みは夏期講習と勉強で、精神と共に削られていた。

進路を左右する大事な時期であり、俺はどうするか悩む日々。

その多忙さもあり、最近陽彩との連絡頻度は以前よりも減って

あまり会えていなかった。

//暗転

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

//背景:渋谷

[陽彩]

「お、重い……。

今日も少し本を買いすぎたな」

[陽彩]

「……こんなとき、とびおがいてくれればな。

忙しいなどと……

ぼくよりも優先すべきこととはなんなのだ、もう……」

[陽彩]

「勉強なら、ぼくが教えてやるのに……！

……なっ?　あれはとびお？

それも女性と……」

//暗転

//背景:陽彩の自室

[エリザ]

「なに？　そのムスっとした顔は。

ワタクシチャンサマが

せっかく遊びに来てあげたというのに」

[陽彩]

「エリザが勝手に家にやって来て、

一度でもぼくが喜んだことがあったか？」

[エリザ]

「それにしたって、

今日はいつになくぬれくさった顔をしていますわ。

なにか嫌なことでもあったの？」

[陽彩]

「ふてくさる、な。

つまらない話だ……。

とびおが勉強もせずに、女と遊ぶから悪いんだ」

[エリザ]

「まあ！　陽彩がエロ恋沙汰!?

なになに？　なにがあったの？」

[陽彩]

「変にちょっとずつ日本語間違えるのやめろ！」

[エリザ]

「まあまあ、とにかく聞いてあげるわ！

面白そうな話じゃない」

[陽彩]

「面白がるな。

それに、色恋沙汰なんかじゃない。

ぼくが勉強を教えていた、とびおという男がいてだな」

[陽彩]

「……まぁ、それ以外にもいろいろあったが……」

[エリザ]

「いろいろ？　キャー！

そ、それはもしかして……エロエロ？」

※エロエロ？はささやき声で

[陽彩]

「そ、それはどうでもいいんだ。

夏期講習だから忙しくて会えず

連絡も少ないのだと思っていた」

[陽彩]

「しかし……。

この前本を買った帰り、とびおを見かけた。

……女性と二人で仲良く歩いているところをだ」

[陽彩]

「ありえない……。

今までぼくが見てきた、冴えないけど優しい真面目なとびおは

全て演技だったんだ……」

[エリザ]

「そのときその、とびっこくん？　に

声をかけたりしなかったの？」

[陽彩]

「とびおだ。

声はかけてはいない……。

あの状況で僕が出て行っても、鬱陶しいだけだろう……」

[エリザ]

「まぁ！

キモオタコミュ障もほどがあるわ！

そういうときは、ビシッと言わないとダメよ」

[エリザ]

「いい？

今、アナタがそんなに怒っている理由は

嫉妬しているからでしょ？」

[エリザ]

「つまり陽彩、アナタは

そのどぶおとかいう男が好きなのに、

失うのが怖くて臆病になっているのよ！」

[エリザ]

「オワカリイタダケタダロウカ?」

//「オワカリイタダケタダロウカ?」は若干カタコトっぽく

[陽彩]

「か、勝手に人のことを決めつけるな！

そもそも……これが恋愛感情なのかどうか

そんな簡単にーー」

[エリザ]

「もういいですわ！

今から一緒にとびっちょくんのところに

いくわよ！」

[陽彩]

「だからとびおだっ！　……え？

いや、急に何を言い出すんだ。

いくらエリザでも勝手すぎる……」

[エリザ]

「いーからワタクシチャンサマに任せなさい！

ほらほら！　行きますわよ！」

//4話終了